

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

武雄市立 橋小学校

本校の平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

また、今年度は、6年生において、3年に1度の理科調査（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題）も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

### 1 児童の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

|               | 国語             |              |              | 算数             |              |              | 理科           |
|---------------|----------------|--------------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|
|               | 5年時            | 6年時          |              | 5年時            | 6年時          |              | 6年時          |
|               |                | A            | B            |                | A            | B            |              |
| H26 入学<br>現5年 | 78.4<br>(1.18) |              |              | 79.2<br>(1.12) |              |              |              |
| H25 入学<br>現6年 | 57.0<br>(0.93) | 68<br>(0.96) | 46<br>(0.85) | 64.0<br>(0.98) | 53<br>(0.84) | 44<br>(0.86) | 58<br>(0.95) |
| H30 正答率の全国比   |                | (0.96)       | (0.84)       |                | (0.83)       | (0.85)       | (0.96)       |

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は、県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

#### (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

### 【学習状況調査】

- ・国語科では「漢字を正しく書く」「主語と述語との関係に注意して文を正しく書く」「文章全体の内容と構成を捉える」ことの正答率が低い。漢字の書き取りの繰り返し学習など、基礎基本の学習が必要とされる。また、与えられた資料などの内容を正しく読み取らせ、指定された文字数など条件に合った作文作りに取り組みさせるなど指導が必要である。
- ・算数科では「図や表を基に伴って変わる2つの数量の関係を調べる」「考えを式や言葉を使って説明する」「面積の大きさの感覚を理解している」ことの正答率が低い。図や表から、2つの数量がどのように変化しているかを読み取る方法を指導する。また、数量の変化など示された情報を基に式や言葉を使って説明する練習に取り組みさせる。面積を求めることについては、対象物について始めに見通しをもたせ、大まかな予想を立てさせるなど量感を身に付けることができるように指導方法を工夫していく。
- ・理科では「強い水の流れにより地面の削られ方が違うこと」「物を水に溶かしても全体の重さはかわらないこと」ことの正答率が低い。水の流れ方と地面の削られ方の関係を理解させること、また、食塩水の全体の重さは、水と食塩の重さを合わせたものであることは、実験結果を考察することを通して理解させるようにする。

### 【意識調査】

- ・国語科では「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けている」と回答した児童の割合が高い。今後も、考えと理由付けを関連させながら学習を進めていくようにする。しかし、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」と回答した児童の割合は低い。与えられた資料などの内容を正しく読み取らせ、わかったこと、自分と同じような考えや違った考えなど比べさせるような指導もおこなっていく。
- ・算数科では「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と回答した児童の割合は高い。しかし、「公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童の割合は低い。今後も、問題の意味をしっかりと理解させ、求め方について速く簡単に正確に解く方法を考えさせるなど、いろいろな考え方について考えさせていくようにする。
- ・理科では「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」と回答した児童の割合は高い。友達と学び合う時間をこれからも設定していくようにする。しかし、「学習したことを普段の生活に生かせないか考えたり、学習したことが生かされているものを、身の回りから見つけたりしている」と回答した児童の割合は低い。学習した内容が身の回りの生活で使われ役立っているものを示したり見つけさせたりする活動を取り入れ、生活と結びついていることを理解させるようにしていく。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業では自分の考えを表現する場を設定し、話し合いの深まりや広がりが見られる手立てを工夫する。  
また、一人一人に、自分の言葉で「まとめる」ができるように、書く活動の時間を確保し、書かせる指導に取り組ませる。
- ・授業の始まり、終わり方を全学級統一し、授業の振り返りをさせるなど共通理解を図る。
- ・タブレット、電子黒板など ICT を効果的に活用することにより、主体的・対話的な授業づくりを取り組むようにする。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学習に集中して取り組めるような環境を整備するために、筆箱、下敷きなど筆記用具について、低・中・高学年ごとに「学習用具の約束」を家庭向けに発行し、家庭と学校との連携を図る。
- ・学年の発達段階に応じた自主学習の「メニュー」や「内容のまとめ方のルール」の手引きを示したり、家庭には「家庭学習の協力」についての便りを配布したりして家庭学習の習慣を身につけさせる。
- ・朝の時間の「花まるタイム」では音読、図形、計算、視写の指導を週4日を基本とし、テンポやリズムをつけ、集中力を高めるような指導を継続していく。